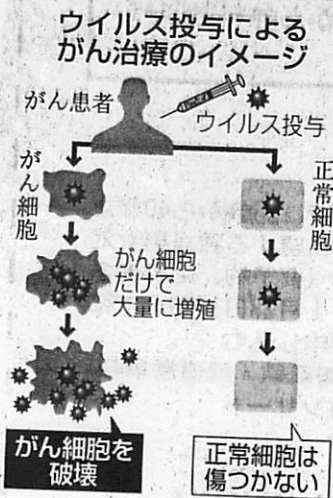


がん細胞だけを破壊するウイルスの投与と放射線治療を併用する新療法を、食道がん患者13人に臨床研究として実施し、11人ががんの消失や縮小が見られたと、岡山大の藤原俊義教授（消化器外科学）らのチームが14日までに明らかにした。

ウイルス投与でがん細胞消失

岡山大負担少ない治療法期待



使用したウイルスは岡山大が開発したテロメライシン。藤原教授は「テロメライシンが放射線治療の効果を増強したと考えられる」としており、手術や抗がん剤投与が難しい高齢者を対象とした負担が少ない治療法として期待できるといふ。

テロメライシンは風邪ウイルスの一種、アデノウイルスを、がん細胞に感染したときにだけ増殖するように遺伝子を組み換えたもの。感染すると1日で10万～100万倍に増え、正常な細胞は傷つけないという。チームによると、2013年11月～昨年1月、食道がんの男女13人（50～90代）に約6週間、内視鏡を使った患部へのウイルス注入と放射線の併用治療を実施。すると、8人の腫瘍が消え、3人で小さくなった。軽微な発熱やリンパ球減少の副作用があったが、いずれも回復したとしている。

今回の結果は近く米国で開催されるがんの学会で発表する予定。

2組女子 看護系希望
2019.1.15 神戸新聞